

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 2007年11月5日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670104951
法人名	医療法人 明輝会
事業所名	グループホーム 帯迫
所在地	鹿児島市吉野町2826-1 (電話) 099-295-7055
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成 19 年 11 月 5 日

【情報提供票より】(平成19年9月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	16

(2)建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	1,000~1,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	140 円	昼食 280 円
	夕食	280 円	おやつ 円
	または1日当たり		700 円

(4)利用者の概要(10月2日現在)

利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	7 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	85.6 歳	最低	76 歳
		最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大田歯科 内村川上内科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、鹿児島北部吉田インターより車で10分という閑静な住宅地に位置している。中庭を中心に建物を配置し裏に広い敷地を有している。ホームの内部は明るく、全体にカーペットが敷き詰められているため家庭的な暖かみを感じ、履き物を用いないため転倒防止にも役立っている。居室の入り口には各家庭より持参した暖簾を使い、畳の部屋には好みの持ち込みが多く、個性のある居心地の良い場所となっている。医療機関・介護施設との連携を十分に図り、その中で利用者及び家族が安心した生活を送っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の要改善点1・居室の環境作り2・活動意欲を触発する物品3・栄養摂取量の把握4・服薬の支援5・注意物品の管理6・市町村との関わり、すべて職員会議で検討し、2と4の項目については改善の途中であり、それ以外は全て改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者・管理者は評価の意義は理解しており、自らのケアを振り返る契機となるように職員全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催し、外部評価の報告や運営状況の報告に留まることなく、地域の代表者・家族からの議題や提案事項に対して検討し、ホームのサービスの向上に役立っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会や運営推進会議の参加、また、介護相談委員の受入を通じて本人や家族の意見・苦情・不満を聞き、提出意見については職員会議などで検討し、改善に取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、町内の夏祭りに参加したりホームでもふれあいマーケットを開催し、地域の人々に声かけし交流を図っている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は、利用者が住み慣れた地域で生きがいのある生活が継続できるように、独自の運営理念を作成している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時に、理念について管理者より説明をし、職員会議・カンファレンス時に理念の共有を図り、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の夏祭りに参加したり運動会などに招待されている。事業所もふれあいマーケットを開催し、地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果は職員会議や運営推進会議で報告し、改善に向けて具体的に検討し、実践に取り込んでいる。自己評価も皆で意見を出し合っている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の議事録の検討や懸案事項について、その後の取り組みの経過を報告し、話し合いをもつてサービスの質の向上を図っている。外部評価の結果についても報告し、改善にむけて検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談委員と連携を図り、利用者のサービスの質の向上に取り組むと共に、包括支援センターの担当者に対して定期的に働きかけをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等全員が面会に訪れるため、健康状態・金銭管理について毎月報告している。定期的にホーム便りを発行し、利用者の暮らしぶりや職員の異動等を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等を開催し、意見を聞いたり玄関に意見箱も設置している。また、家族などが意見や相談・苦情等言いやすい様雰囲気作り心がけている。提出意見については職員会議で検討し、改善に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の半数が交代しているが、退職希望者に対して留まるための話し合いをし、利用者に対してはダメージを受けない様に対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら初任者研修や法人内での研修を実施しているが、職員の交代が多いため、段階に応じた計画的な研修や外部への研修参加は十分とは言いがたい。	○	職員の段階に応じた研修計画を作成すると共に、外部研修にも積極的に参加することが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム連絡協議会に加入し、研修の参加や同法人内のグループホームとの合同勉強会・交流会に職員と共に参加しているが、職員は法人外の同業者との勉強会・相互訪問等の交流を図ってはいない。	○	職員も法人外の同業者との勉強会参加・相互訪問等交流を図ることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者及び家族に見学して貰い、困難な場合は管理者と介護計画作成者が訪問し、馴染みの関係を作る様に工夫している。また、併設のデイサービスを利用してからの人も多いため、馴染みの関係はできている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩という考え方を共有しており、昔からの生活の技や行事について教えてもらったり、また、利用者が職員の健康状態に気遣う等お互いに支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを使い、本人及び家族から一人ひとりの思いや意向を聞いている。また、日常生活の中で暮らしの希望などを聞き、担当者会議等で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの希望や意向を確認したり、日頃からの言動を収集し、一人ひとりのアセスメントに基づきケア担当者会議にて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは、本人及び家族の意向やモニタリングの結果・職員のケース記録等から毎月確認し、経過記録に記載している。見直し前に状況の変化が起きたらその時点で対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人及び家族の状況に応じて通院・送迎・墓参り等、必要な支援は柔軟に対応している。医療連携体制加算もあり、定期的に訪問看護師による健康チェックなどがある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族の意向を聞き、希望通り対応している。また、適切な医療を受けるように医療機関と連携を図り支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	将来的に看取りまで考えて「看取りの指針」は作成しているが、医療機関・関係者・職員間で話し合いを十分にしていない。今から職員に説明をし、皆で検討を始める段階である。	○	「看取りの指針」について、医療機関・関係者・職員間で十分に検討し、方針が決まったら本人及び家族への説明と対応の共有を図ることが望まれる。
のぞまれる					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、日々のケアの中でプライドやプライバシーを損ねるようなケアがないか注意を払っているが、食事時にせかしたり、時として言葉使いは丁寧であるが、口調が強かったりするような対応が見受けられる。	○	利用者一人ひとりに配慮した言葉かけや対応が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一定のスケジュールはあるが、利用者一人ひとりの体調や気分・希望に合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みや希望を取り入れて、旬の食材を使い食事を楽しんでいる。また、食事作りや後始末等、出来るところを一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は隔日となっているが、利用者の希望を聞きながら入浴時間にとらわれず、個々の習慣に合わせて支援している。また、毎日入浴を希望する人には対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人や家族より生活歴や趣味を把握しており、歌謡曲・民謡を歌ったり散歩をしたりするなど、本人の希望や楽しみごとに対応し支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回は全員で外出し、その他は利用者の希望に合わせて買い物・散歩に出かけ、ストレスをためないように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を毎月開催しマニュアルも作成している。全ての職員が利用者の外出の傾向や癖を把握し、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による消火訓練や自主訓練を実施しており、また、非常用食料や備品も準備している。しかし、地域住民との協力体制についての話し合いを十分にもっていない。	○	ホームの立地条件を考慮すると、早急に地域の人々の協力を得よう話し合いをもつことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分摂取量を把握し、生活日誌に記録している。献立や栄養のバランスについても管理栄養士にアドバイスを受けており、一人ひとりの状態に合わせて軟食やキザミ食にするなど対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は明るく、不快な音や光が射し込まないように配慮している。玄関や食堂には季節の花が生けてあり、廊下の飾り窓には小物を置くなど居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全て畳で、その中にテレビ・ベッド・タンス等、本人が使い慣れた家具や好みの物が持ち込まれている。家族の写真や手作りの作品を飾り、個別性のある本人にとって居心地よく過ごせる工夫をしている。		